

ノーマライゼーションの取組 で利用者の社会参加を応援

社会福祉法人清流苑は、健康で生きがいを持ち、安心して生活できるよう、利用者の支援を行うとともに、生きる力を身につけ、自立することができるよう支援することを基本理念に、平成21年から出水市を中心に事業を行っています。「養護学校卒業後は、一般就労を目指しますが、よりスムーズに勤務できるよう、私達のような事業所で卒業後のフォローを行い、就労をサポートします。」とお話くださったのは、本部長兼シヨブコーチを勤める角智弘さんは、自立訓練（生活訓練）や就労継続支援（A・B型）の運営などを中心に、現在62名の利用者がいらっしゃいます。

清流苑では令和4年4月よりノーマライゼーション推進事業の一環として、『飲食マルシェ』をクレーンパークいずみで月に1回開催しています。コロナ禍で売上げの落ち込んだ出水市飲食業組合の活性化、利用者のコミュニケーション能力を育むこと、また障害者の方の受け入れ先の確保を目的に、協同運営しています。このノーマライゼーション

社会福祉法人 清流苑



一つ一つを丁寧に。飲食業組合の方と力を合わせ販売しています。



角さん「真面目で実直な彼らこそ、今の時代は表に出て行くべきだと考えます。彼らのエネルギーは必ずプラスになります。」

公園が隣接しているので、開店と同時に多くの子ども連れのお客様でにぎわいました。ノーマライゼーション…障害のある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしている社会を目指すこと。



「真面目で実直な彼らこそ、今の時代は表に出て行くべきだと考えます。彼らのエネルギーは必ずプラスになります。」

角さん「真面目で実直な彼らこそ、今の時代は表に出て行くべきだと考えます。彼らのエネルギーは必ずプラスになります。」

推進事業は、SDGsの到達目標の1つである『包括的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する』ことが根底にあります。「この事業が出水市内、広くは県内の企業の心に届き、障害者の企業への受け入れに貢献できることを目指しています。」と角さんは本事業の目標を説明してくださいました。

出店店舗は、お弁当やパン・スイーツなど様々で、店舗で商品を準備し、清流苑の利用者と共に販売を行います。出水市飲食業組合 迫田組合長は「皆、真面目で素直で仕事熱心なんです。働く姿を直に見て、この子たちと働きたいと思ってもらい、就職に繋がる事が一番です。」とお答えくださいました。また清流苑利用者の西孝太郎さんは「まだ戸惑うこともありませんが、このマルシェを通して自立し、就労を目指していきます！」と今後の目標をお話いただきました。元々コミュニケーションが苦手な利用者が、この事業を通し、多くの方々とふれあう機会が増えた事で、自身の意見を伝えることができるなど成果も出てきています。

今後は、出店する店舗数を拡大していく予定です。角さんは、「私たち社会福祉法人が地域に対してできること、それは小さなものかもしれませんが、それが、これを持続していくことで、必ず大きな実となることを信じて頑張りたいと思います。」と清流苑の利用者を温かい目で見守りながらお話しくださいました。飲食マルシェについては、清流苑のSNSや出水市の行政無線、ホームページでお知らせしています。

社会福祉法人清流苑（出水事業所）
（紫尾の里・やはす園・一ツ葉・NEXTAGE）
〒899-0217 鹿児島県出水市平和町477-2
TEL：0996-63-8023 FAX：0996-68-5100
HP：<https://seiryuen-honbu.jimdofree.com/>

